

確かに今の世は借金天国で、なんでもスグ手に入りますが、人並み以上の生活をしようとすれば、楽あれば苦有り、借金の返済に追われ生活苦に陥る事になります。看護が大変、故に施設に預ける方も見えになると思います。ましてや親の年金だけで施設に入れば良いのですが、足りなければその費用も負担することになります。ただでさえも共働きをしているのに、全ての費用を捻出することができでしょうか。無理せざるを得なくなります。果たして長続きするでしょうか。家庭の崩壊を見ないと良いのですが心配です。親の庇護なしに育った方は別にして、無理して別居するより、可能なら同居のほうが良いかと思うのですが。看護の**看は目で見ると同時に心の目でも見ると言う意味があります。**相手に対しての気配りです。ですから看護師さんは大変な仕事なのです。看護される方も感謝を忘れてはいけません。

子どもは数え年三つで一生生きてく魂が出来てしまいます。現在中学生だけで不登校が十万人もいますし、確か全体では四十万人を越していたと思います。大変なことです。どのような環境の元で育って来たのか、「いじめ」だけが問題なのか、自分の学校生活の中ではないなくなったのは転校して行った生徒だけでした。現在は情報も過多、親を取り巻く環境、親の考え方、家庭のあり方も変わりました。学校の教育も変遷してきました。しかしながら不登校は最近問題になっている、「引きこもり」の予備軍と言っては失礼かもしれませんが、不登校児童が「引きこもり」になる可能性は大だと思えます。中には昔、「いじめ」による不登校児童であった、家人一真氏のようにIT企業を起こし、立派に社長を努め、活躍されて見える方もいます。彼も学歴は無いよりも有ったほうが良いと言っています。又、彼の人生哲学は「**世渡り上手を目指すのではなく、世渡り下手でも、ひたすら自分に正直に生きていくようにしている**」・「**謝ることに関しては、早ければ早いほど良い**」・「**自分の信頼できる人を一人は作る**」ことだと言って見えます。現在は読書三昧だそうです。時を読むのは簡単ではございません。

萩原健一氏の本を読みました。先ず驚いたのは、四国霊場八十八ヶ所の歩き遍路を二回されていた事です。自分は役者としてのショウケンに興味を抱いていました。いろいろ問題提起をされたので幅広い役者に成られたと思っっています。彼は自著の中で「新しい挑戦に慎重になることは否定しない、怖がって石橋を叩くのはいいけれど、叩きすぎて渡る前に石橋が壊れるよりも、自分で歩いて壊したほうがいい。足踏みをせず、まずは一步、踏み出してみることだ。すると次の足が出る。それが結局、生きている、という証じゃないのか」と萩原健一氏自分の経験をかたっています。唯、**しつかりした目標も無いのに動いた訳でもあるまい。人生哲学は自分の哲学で学ぶしか無い。但し、先人の教えも参考にして頂きたい。「急いで事は仕損じる」事もあります。**人それぞれに歩歩あった道をゆかざるを得ないでしょう

盆施餓鬼会二十六日です。

令和元年七月一日

善壽界善入院油掛地藏尊